

# イングランドの食料消費に関する一考察

—地域比較を中心として—

平 岡 祥 孝

## 目 次

- I. はじめに
- II. 地域状況
  - 1. 人口規模と世帯数
  - 2. 就業状況
  - 3. 週平均粗家計所得
- III. 地域別家庭購入量比較
  - 1. 家計支出額
  - 2. 主要飲食料品家庭購入量
- IV. PFC 供給熱量比率比較
  - 1. 熱量摂取量
  - 2. PFC 供給熱量比率
- V. むすびにかえて

## I. はじめに

小稿の課題は、イングランド (England) の地域間における食料消費の比較を通して、食料消費の地域的特徴を分析することにある。

筆者は、拙稿「連合王国における食料消費に関する一考察—イングランド・ウェールズ・スコットランド・北アイルランド」(『北海道武蔵女

子短期大学紀要』第40号、2008年3月)において、連合王国(the United Kingdom、以下イギリスと記す)を構成する各国の食料消費の比較をおこなった。従来の研究では、イギリス全体を対象としたデータを用いた分析が中心であった。しかしながら、イングランド、ウェールズ(Wales)、スコットランド(Scotland)、北アイルランド(Northern Ireland)の各国は、言うまでもなく歴史的・文化的・社会的背景がそれぞれ異なるゆえ、食生活の実態は一樣ではないと考えられる。また、当然のことながら、現在の経済状況も食料消費動向に影響を与えるであろう。

イングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4国の比較分析を通して、幾つかの特徴点を明らかにすることが出来た。その中でも、北アイルランドとグレートブリテン(Great Britain)との相違点が明らかになった。具体的には、次の5点に要約される<sup>1)</sup>。

- ① イングランド、ウェールズ、スコットランドと比較して北アイルランドは、牛乳の家庭購入量が最も多い反面、チーズ購入量は最も少ない。
- ② イングランド、ウェールズ、スコットランドと比較して北アイルランドは、牛肉・子牛肉の家庭購入量が最も多い。
- ③ イングランド、ウェールズ、スコットランドと比較して北アイルランドは、馬鈴薯の家庭購入量が極めて多い反面、生鮮野菜の家庭購入量は最も少ない。
- ④ イングランド、ウェールズ、スコットランドと比較して北アイルランドは、パン類の家庭購入量が最も多い。
- ⑤ 北アイルランドにおける果物全体の家庭購入量は、4カ国では最も多いイングランドの4分の3程度である。
- ⑥ PFC供給熱量比率で見ると、イングランド、ウェールズ、スコットランドと比較して北アイルランドでは、炭水化物(C)の数値が若干高くなっている<sup>2)</sup>。

さらにイギリスの食の地域性をさらに詳細に分析するためには、面積的にも、人口的にも最も大きい地域であるイングランドを対象として分析を試みる必要があると考える。

イギリスの国土面積は24万2,495 km<sup>2</sup>、グレートブリテンの面積は22万8,919 km<sup>2</sup>である。その中でイングランドは13万279 km<sup>2</sup>であり、面積的にはイギリスの約55%、グレートブリテンの約58%を占める<sup>3)</sup>。また表I-1は、イギリスの2006年中期人口推定値である。イギリス全体の人口は、男性2,969万4,000人、女性3,089万3,000人の計6058万7,000人である。イングランドの人口は、男性は約2,492万6,000人、女性は約2,583万7,000人の計5,076万3,000人である。要するに、イングランドの人口は、イギリスの全人口の約84%を占めていることになる。

イングランドの統計的数値を示す場合には、政府関係機関設置の行政区画に基づいて9地域に分けられている。ノースイースト (North East)、ノースウエスト (North West)、ヨークシャー・ハンバー (Yorkshire and The Humber)、イーストミッドランズ (East Midlands)、ウエストミッドランズ (West Midlands)、イースト (East)、ロンドン (London)、サウスイースト (South East)、サウスウエスト (South West)

表I-1 イギリスの2006年中期人口推定値

	男性	女性
	(千人)	
イングランド	24926.4	25836.6
ウェールズ	1444.8	1521.1
スコットランド	2469.4	2647.5
北アイルランド	853.4	888.2
イギリス	29694	30893.4

出所) ONS, *Key Population and Vital Statistics*, p10 Table を参考に作成。

である。

分析の主たるデータとなる「家庭食生活調査」(*Family Food*)各年度版や「家計支出調査」(*Family Spending*)各年度版も、この9地域分割を踏襲している。それゆえ、小稿でもこの地域分割に従う。まざイングランド各地域の社会経済的状況を整理して、そして食料消費の地域比較分析を進めていきたい。

## II. 地域状況

### 1. 人口規模と世帯数

表II-1は、イングランド各地域の2006年中期推定値に基づく年齢階層別居住人口を示している。人口規模では、サウスイースト地域が最大であり、823万7,700人である。次いで、ロンドン地域751万2,300人、ノースウエスト地域685万3,200人が続く。ノースイースト地域が最小人口規模であり、255万5,700人である。

ロンドン地域とサウスイースト地域を比較するならば、1歳未満層から30~44歳層までは、ロンドン地域の方が人口は多い。とりわけ16~29歳層と30~44歳層が厚い。16~29歳層では男性80万5,700人、女性82万1,000人であり、サウスイースト地域よりもそれぞれ9万人弱、13万人弱多い。30~44歳層では男性104万1,200人、女性97万4,800人であり、サウスイースト地域よりもそれぞれ17万人弱、6万人弱多い。しかるに45~59歳層以上では、逆にサウスイースト地域の方が人口は多くなる。45~59歳層では、男性80万8,800人、女性82万3,100人である。ロンドン地域よりもそれぞれ20万人弱、18万人強多い。

サウスイースト地域の特徴は、女性高齢者数が多いことである。74歳以上女性に限っても41万5,800人である。60歳以上女性で見ると101万3,100人であり、全人口の約24%を占めている。男性の20%より高い数値である。ノースイースト地域は約24%である。ちなみにノース

表II-1 イングランド各地域の年齢階層別居住人口 (2006 年中期推定値)

	全人口		1歳未満		1～4歳		5～15歳		16～29歳		30～44歳		45～59歳		60～64歳		65～74歳		74歳以上		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
	(千人)																				
イングランド	24926.3	25836.6	317.0	302.8	1139.5	1139.5	3443.8	3274.8	4724.9	4575.1	5591.0	5638.4	4839.0	4937.8	1320.2	1376.6	1980.7	2190.5	1513.5	2400.8	
ノースイースト	1247.4	1308.3	14.6	14.2	55.6	52.8	170.4	161.8	240.1	230.4	256.6	269.6	257.8	263.4	67.6	69.9	108.0	122.0	76.7	124.2	
ノースウエスト	3354.5	3498.7	42.4	40.1	159.4	151.3	477.3	451.6	634.9	618.9	719.5	736.5	666.7	678.3	180.8	187.8	277.5	310.0	195.9	324.1	
ヨークシャー・ハンプシャー	2327.2	2615.2	31.3	30.1	118.7	113.4	350.5	335.2	508.0	478.6	534.8	547.7	495.4	500.9	134.9	138.1	204.3	228.1	149.3	243.1	
イーストミッドランズ	2157.3	2206.9	25.7	24.4	98.2	92.7	298.0	280.5	401.6	381.3	467.2	473.0	431.2	433.6	123.3	125.5	177.9	191.2	134.3	204.7	
ウエストミッドランズ	2639.5	2727.2	33.7	32.5	130.0	123.6	377.4	360.3	491.0	476.3	566.3	570.3	513.3	516.8	147.7	151.8	218.7	240.4	161.3	255.2	
イースト	2752.7	2853.8	33.9	32.0	131.9	125.3	385.4	369.1	480.8	463.0	606.4	617.6	549.3	558.7	154.6	161.5	230.0	250.1	180.4	276.4	
ロンドン	3714.1	3798.3	58.5	56.2	203.3	195.2	475.4	456.4	805.7	821.0	1041.2	974.8	613.8	639.7	136.3	151.1	213.3	241.9	166.5	261.9	
サウスイースト	4028.0	4209.7	49.5	47.2	191.2	182.5	572.1	539.0	715.8	694.7	885.0	917.4	808.8	823.1	221.5	231.5	323.4	358.6	260.7	415.8	
サウスウエスト	2505.6	2618.5	27.4	26.1	107.7	102.7	337.3	320.9	447.0	410.9	514.0	531.5	502.7	523.3	153.5	159.4	227.6	248.2	188.4	295.4	

出所) ONS, *Key Population and Vital Statistics*, p10 Table 1 を参考にして作成。

ウエスト地域とヨークシャー・ハンバー地域は約 23%である。他方、ロンドン地域は女性約 17%、男性約 14%である。高齢化は地方の方が進行していると言えよう。

表Ⅱ-2 は、2001～04 年における地域別世帯数の推移を示している。どの地域も、わずかながらも万単位で世帯数が増加している。2004 年時点では、サウスイースト地域が 337 万世帯と最も多く、次いでロンドン地域 311 万世帯である。

表Ⅱ-3 は、地域別外国移民流入数の推移を示している。当然のことながら、ロンドン地域への流入数が顕著である。17 万人台で推移している。最も流入数が少ないノースイースト地域の 11 倍以上である。次いで、ロンドン地域に隣接するサウスイースト地域とイースト地域への流入が多い。2006 年では、前者は 8 万 1,000 人、後者は 6 万人である。

## 2. 就業状況

表Ⅱ-4 は、2003～07 年における地域別失業率の推移を示している。

表Ⅱ-2 イングランド地域別世帯数 (2001～2004 年)

	2001	2002	2003	2004
	(百万世帯)			
ノースイースト	1.08	1.08	1.09	1.10
ノースウエスト	2.83	2.85	2.87	2.90
ヨークシャー・ハンバー	2.07	2.09	2.10	2.12
イーストミッドランズ	1.74	1.76	1.78	1.80
ウエストミッドランズ	2.15	2.18	2.19	2.21
イースト	2.24	2.26	2.29	2.30
ロンドン	3.04	3.07	3.09	3.11
サウスイースト	3.29	3.32	3.35	3.37
サウスウエスト	2.09	2.12	2.14	2.16
イングランド	20.52	20.72	20.90	21.06

出所) ONS, *Regional Trends No 40, 2008 Edition*, p97 Table 3.16 を参考にして作成。

表II-3 イングランド地域別外国移民流入数

	2001	2005	2006
	(千人)		
ノースイースト	12	16	15
ノースウエスト	30	40	43
ヨークシャー・ハンバー	36	48	49
イーストミッドランズ	20	38	37
ウエストミッドランズ	32	32	33
イースト	39	50	60
ロンドン	176	174	170
サウスイースト	66	70	81
サウスウエスト	26	41	43
イングランド	438	509	530

出所) ONS, *Regional Trends No 40, 2008 Edition*, p95 Table 3.12 を参考にして作成。

表II-4 イングランド地域別失業率<sup>1)</sup> (2003~2007年)<sup>2)</sup>

	2003	2004	2005	2006	2007
	(%)				
ノースイースト	6.20	5.60	6.80	6.20	6.60
ノースウエスト	5.00	4.50	4.50	5.40	6.00
ヨークシャー・ハンバー	5.20	4.70	4.90	5.90	5.70
イーストミッドランズ	4.30	4.30	4.30	5.50	5.10
ウエストミッドランズ	5.80	5.70	4.80	5.90	7.10
イースト	4.00	3.80	4.00	5.20	4.80
ロンドン	7.40	7.10	7.30	8.00	7.50
サウスイースト	4.00	3.80	3.90	4.70	4.30
サウスウエスト	3.50	3.80	3.30	3.80	4.10
イングランド	5.00	4.80	4.80	5.70	5.70

注1) 労働年齢人口に対する失業者数の比率 (季節調整済)

注2) 各年の第2 四半期

出所) ONS, *Regional Trends No 40, 2008 Edition*, p123 Table 5.14 を参考にして作成。

失業率はロンドン地域が最も高く、7～8%の範囲で推移している。サウスウエスト地域が最も低い失業率となっている。3～4%程度の範囲で推移している。2007年の数値で見ると、5%を下回っている地域は、イングランドの雇用状況としては比較的恵まれているのではないかと考えられる。

表II-5は、2007年第2四半期における地域別雇用形態を比較している。イングランド全体では、被雇用者の5割近くがフルタイム雇用である。パートタイム雇用比率では、サウスウエスト地域が18.2%と最も高く、ロンドン地域が11.1%と最も低い。その他の地域は概ね15～16%台である。最も高いサウスウエスト地域と比べて7.1ポイント低い。自己雇用比率は、10%以上のイースト地域、ロンドン地域、サウスイースト地域およびサウスウエスト地域の4地域と、7%前半から～9%後半のノースイースト地域、ノースウエスト地域、ヨークシャー・ハンバー地域、イーストミッドランズ地域およびウエストミッドランズ地域の5地域とに分けられる。

表II-5 イングランド地域別雇用形態 (2007年第2四半期)

	フルタイム雇用	パートタイム雇用	自己雇用
	(%)		
ノースイースト	47.8	15.3	7.3
ノースウエスト	49.0	15.1	7.9
ヨークシャー・ハンバー	47.5	16.6	8.3
イーストミッドランズ	49.4	16.5	8.9
ウエストミッドランズ	48.5	15.8	7.6
イースト	49.1	16.7	10.8
ロンドン	47.3	11.1	10.5
サウスイースト	51.1	16.4	10.4
サウスウエスト	48.1	18.2	11.0
イングランド	48.8	15.5	9.4

出所) ONS, *Regional Trends No 40, 2008 Edition*, p116 Table 5.4 を参考にして作成。

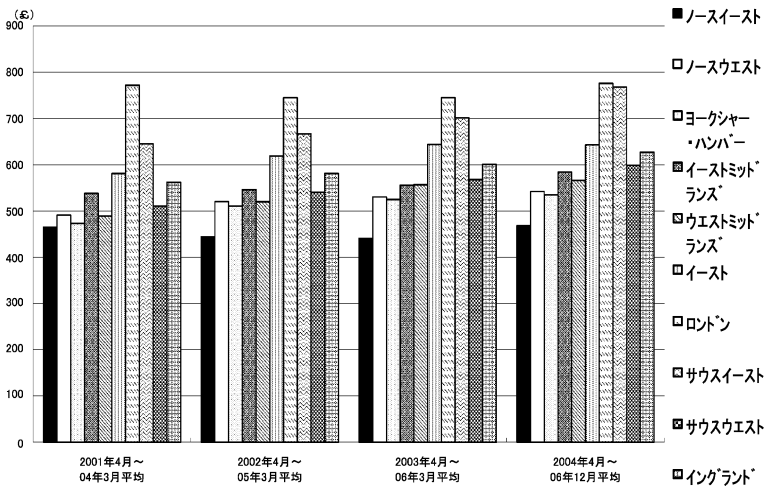


### 3. 週平均粗家計所得

図II-1は、週当たり平均粗家計所得を比較している。2001年4月～04年3月、2002年4月～05年3月、2003年4月～06年3月、および2004年4月～06年12月の4期間の平均値に基づいて比較している。

ロンドン地域が最も高い。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、ロンドン地域は776ポンドで最も高く、次いでサウスイースト地域が768ポンドである。そして少し差があるが、イースト地域の643ポンドと続く。他方、ノースイースト地域が468ポンドと最も低く、ロンドン地域やサウスイースト地域との格差は300ポンド以上である。

イングランド全体平均627ポンドを基準にするならば、所得上位のロンドン地域、ロンドン地域と隣接するサウスイースト地域およびイースト地域の3地域と、500ポンド台のノースウエスト地域、ヨークシャー・ハンバー地域、ノースミッドランズ地域、ウエストミッドランズ地域およびサウスウエスト地域と、所得下位のノースイースト地域に分けるこ



図II-1 週平均粗家計所得

出所) Defra, *Family Food*, various issues を参考にして作成。

とが出来るとであろう。

### Ⅲ. 地域別家庭購入量比較

#### 1. 家計支出額

表Ⅲ-1は、週一人当たり飲食品家庭購入支出額・外食支出額を比較している。2001年4月～04年3月、2002年4月～05年3月、2003年4月～06年3月、および2004年4月～06年12月の4期間それぞれの週一人当たり支出額で表している。

家庭購入支出額では、当該4期間ともサウスイースト地域が最も多く支出している。最低支出額の地域は、ノースイーストあるいはヨークシャー・ハンバーである。たとえば2004年4月～06年12月の平均値では、イングランド全体の平均支出額は2,373ペンスである。最低支出額地域のノースイースト地域は2,231ペンス、最高支出額地域のサウスイースト地域は2,584ペンスであり、その差は353ペンスである。

外食支出額は、当該4期間ともロンドン地域が最も多く支出している。たとえば2004年4月～06年12月の平均値では、イングランド全体の平均支出額は1,162ペンスである。最低支出額地域のウエストミッドランズ地域は1,036ペンス、最高支出額地域のロンドン地域は1,337ペンスであり、その差は301ペンスである。家庭購入支出額で見ると、ウエストミッドランズ地域は2,243ペンス、ロンドン地域は2,325ペンスであり、両地域ともイングランド全体平均より下回っているが、とりわけウエストミッドランズ地域は130ペンス低い。

#### 2. 主要飲食品家庭購入量

図Ⅲ-1～図Ⅲ-15は、主要食料品の週一人当たり家庭平均購入量を地域比較したものである。いずれの図も、2001年4月～04年3月、2002年4月～05年3月、2003年4月～06年3月、および2004年4月～06年

(ペンス/人・週)

表Ⅲ-1 週1人当たり飲食品家庭購入支出額・外食支出額		ハウス・イースト	ノースウエスト	ヨークシャー・ハンバー	イーストミッドランズ	ウエストミッドランズ	イースト	ロンドン	サウスイースト	サウスウエスト	イングランド
		家庭購入支出		2070	2169	2049	2199	2083	2314	2190	2330
2001年4月～04年3月平均											
2002年4月～05年3月平均		2117	2239	2094	2231	2116	2365	2197	2434	2373	2257
2003年4月～06年3月平均		2134	2276	2162	2297	2161	2436	2248	2494	2417	2310
2004年4月～06年12月平均		2231	2286	2239	2352	2243	2461	2325	2584	2473	2373
外食支出		1025	1080	1065	1096	946	1022	1342	1153	1010	1100
2001年4月～04年3月平均											
2002年4月～05年3月平均		998	1142	1121	1117	971	1011	1360	1144	1048	1126
2003年4月～06年3月平均		1008	1102	1156	1121	1000	1071	1354	1171	1116	1140
2004年4月～06年12月平均		1068	1081	1213	1133	1036	1106	1337	1203	1156	1162

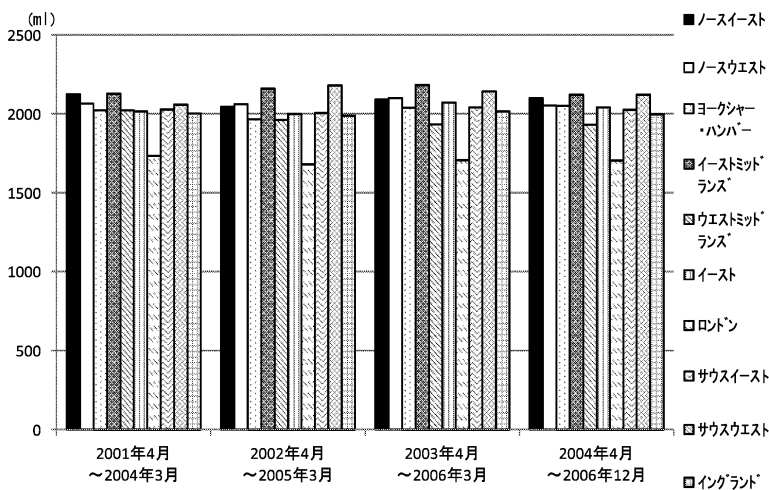
出所) Defra, *Family Food, various issues* を参考にして作成。

12月の4期間それぞれの週一人当たり家庭平均購入量で表している。以下、各図から明らかな特徴点を説明していきたい。

図Ⅲ-1は、牛乳・生クリーム購入量を比較している。ロンドン地域が最も少なく、1,700 ml 前後である。イーストミッドランズ地域とサウスウエスト地域が多い。2004年4月～06年12月の平均値では、それぞれ2,120 ml、2,121 mlである<sup>4)</sup>。

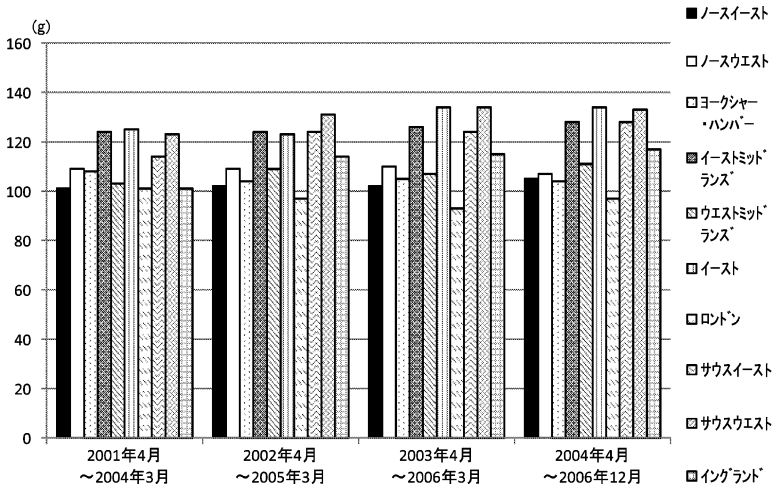
図Ⅲ-2は、チーズ購入量を比較している。牛乳・生クリーム購入量の場合と同様に、ロンドン地域が最も少ない。2004年4月～06年12月の平均値では97 gであり、イングランド平均購入量よりも20 g少ない。他方、イースト地域は134 g、サウスウエスト地域は133 gと、ロンドン地域と比較して35 g以上多い<sup>5)</sup>。

図Ⅲ-3は生肉購入量を、図Ⅲ-4はその他肉類・肉製品購入量を、それぞれ比較している。全般的に見ると、ノースイースト地域が少ない。



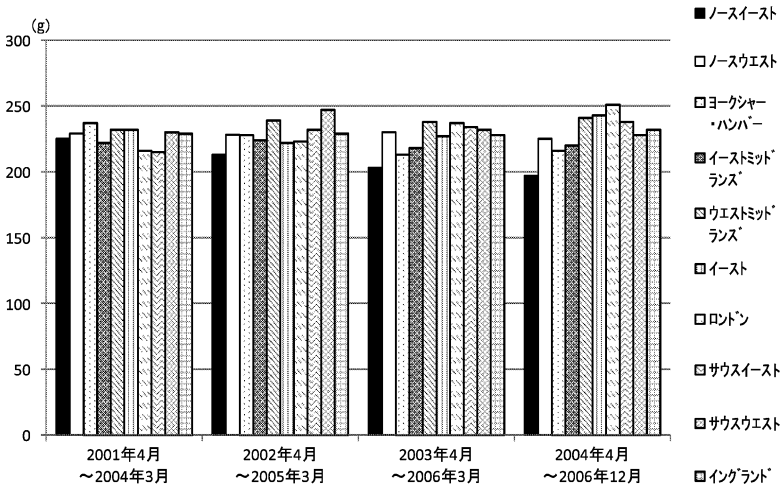
図Ⅲ-1 地域別週1人当たり牛乳・生クリーム家庭平均購入量

出所) Defra, Family Food, various issues を参考にして作成。



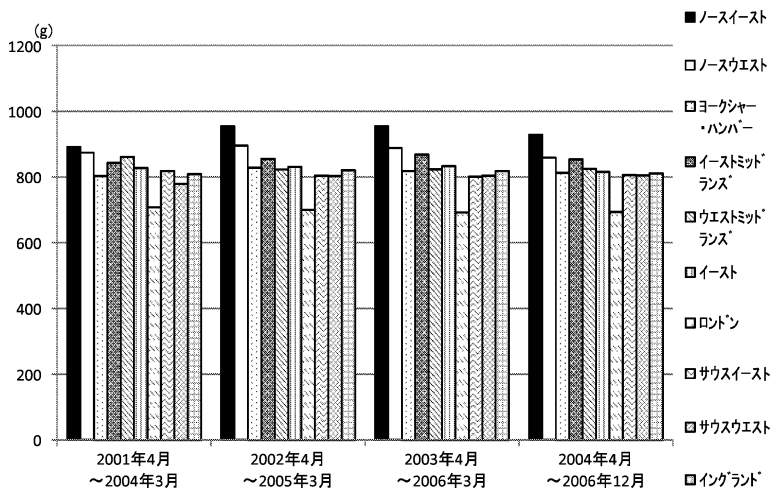
図III-2 地域別週1人当たりチーズ家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図III-3 地域別週1人当たり生肉家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図III-4 地域別週1人当たりその他肉類・肉製品家庭平均購入量

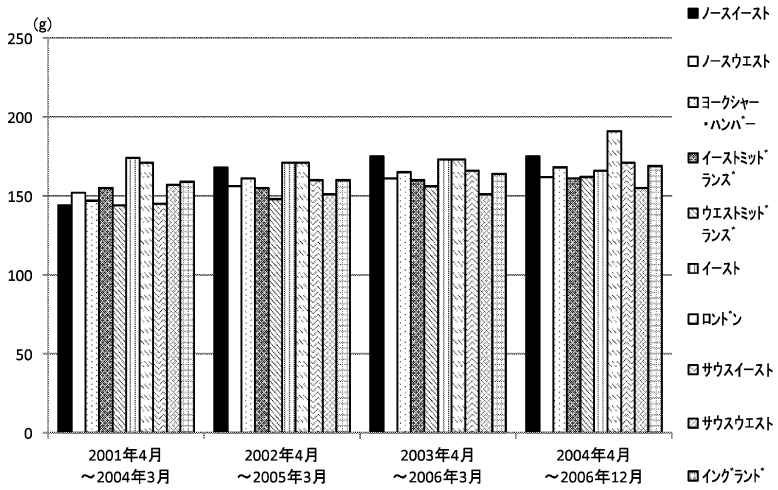
出所) 図III-1と同じ。

2002年4月～05年3月、2003年4月～06年3月、および2004年4月～06年12月の3期間の平均値では最も少ない地域であり、それぞれ213g、203g、197gである。

しかるに図III-4によれば、その他肉類・肉製品購入量ではノースイースト地域が最も多い。他方、2003年4月～06年3月および2004年4月～06年12月の2期間において生肉購入量が最も多いロンドン地域が、逆にその他肉類・肉製品購入量が最も少ない。2004年4月～06年12月の平均値では、ノースイースト地域928gに対して、ロンドン地域は694gである。

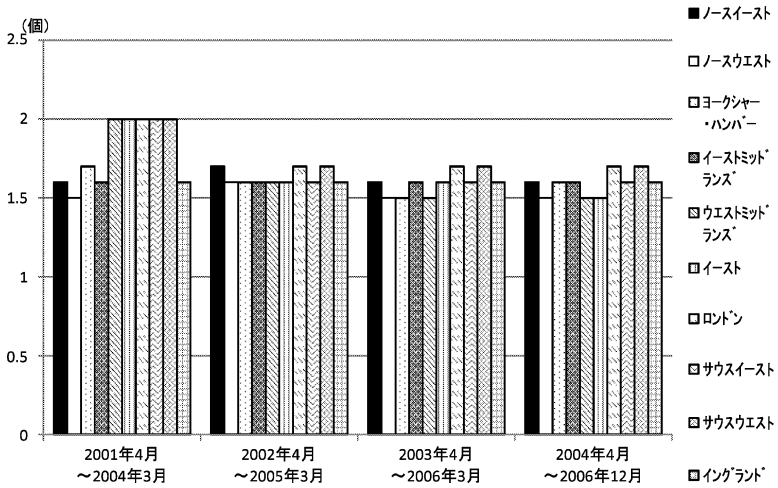
図III-5は魚類購入量を比較している。ロンドン地域が最も多く、サウスウエスト地域が最も少ない傾向にある。2004年4月～06年12月の平均値では、ロンドン地域191g、サウスウエスト地域155gである。

図III-6は鶏卵購入量を比較している。どの地域も1.5～1.7個以内に収まっている<sup>6)</sup>。近年は、地域的には顕著な傾向は見られない。



図III-5 地域別週1人当たり魚類家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



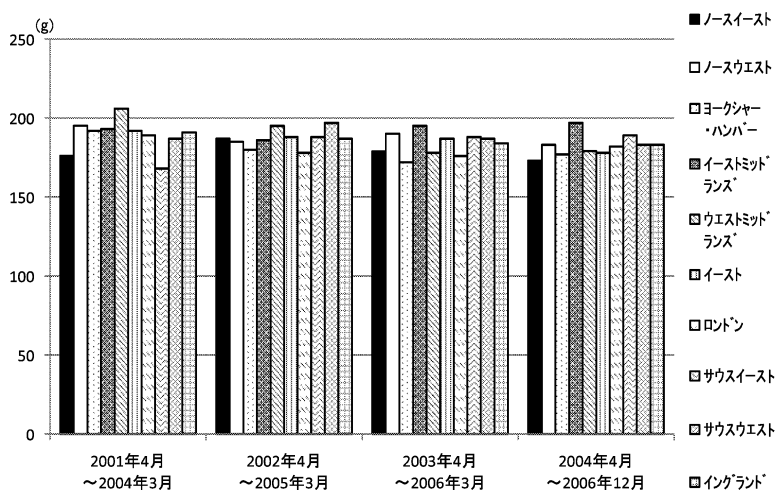
図III-6 地域別週1人当たり鶏卵家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。

図Ⅲ-7は油脂類購入量を、図Ⅲ-8は砂糖・甘味類購入量を、それぞれ比較している。油脂類購入量、砂糖・甘味類購入量とも、どの地域においてもほぼ減少傾向を示している。油脂類購入量では、とりわけウエストミッドランズ地域の減少傾向が顕著である。2001年4月～04年3月の平均値206gから、2004年4月～06年12月の平均値179gに低下している。砂糖・甘味料購入量は、ノースイースト地域では減少傾向が顕著である。ロンドン地域は従来より購入量自体が少ない。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、ウストミッドランズ地域が最も多く145gであるが、ノースイースト地域は112g、ロンドン地域は113gである。

イングランドとして例外ではなく生活習慣病を意識して、鶏卵および油脂類や砂糖・甘味類の摂取を控えている傾向が読み取れる。

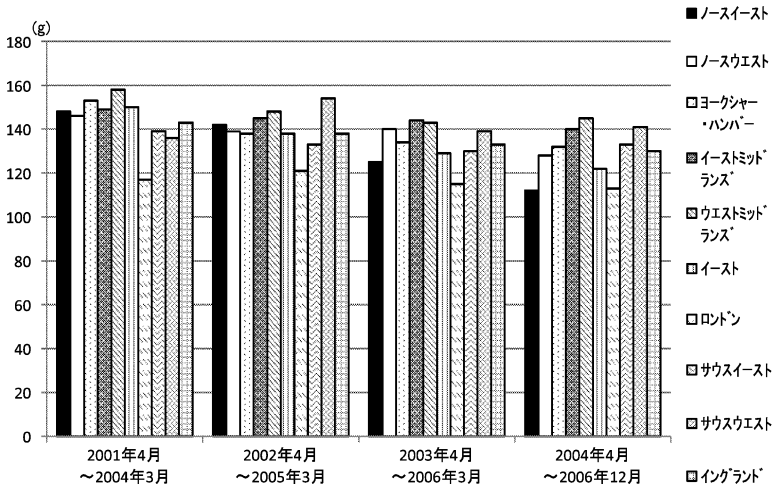
図Ⅲ-9は馬鈴薯以外の野菜類購入量を、図Ⅲ-10は生鮮馬鈴薯・加工馬鈴薯購入量を、それぞれ比較している。サウスウエスト地域が野菜類の購入量が最も多い。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、



図Ⅲ-7 地域別週1人当たり油脂類家庭平均購入量

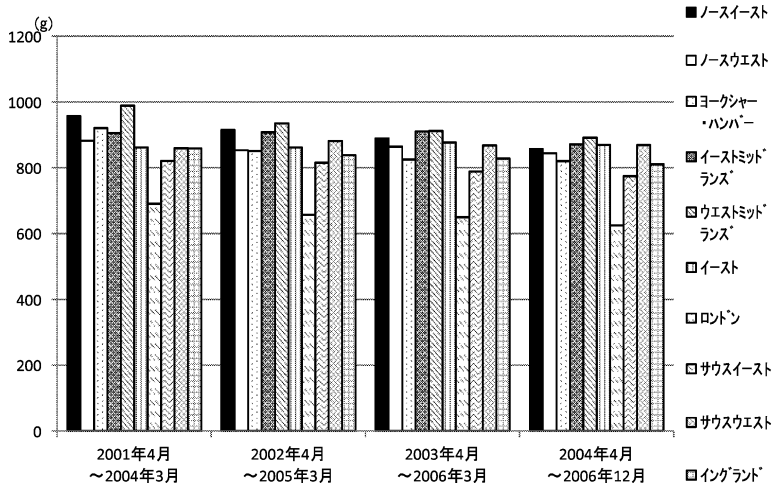
出所) 図Ⅲ-1と同じ。





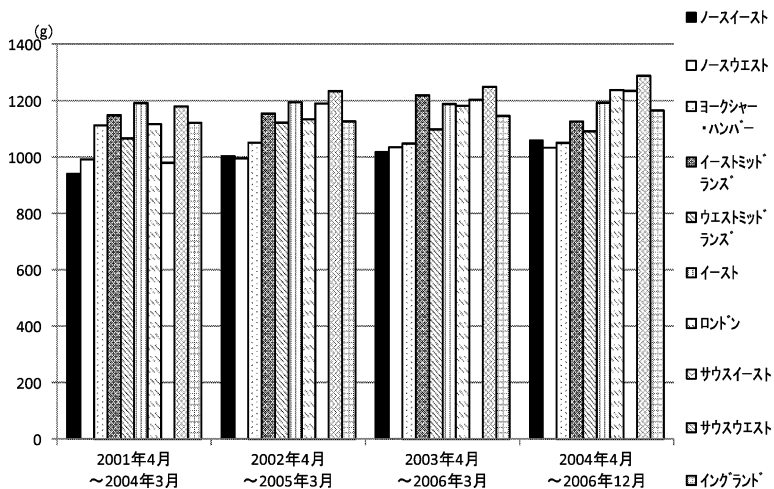
図III-8 地域別週1人当たり砂糖・甘味類家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図III-9 地域別週1人当たり生鮮馬鈴薯・加工馬鈴薯家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。

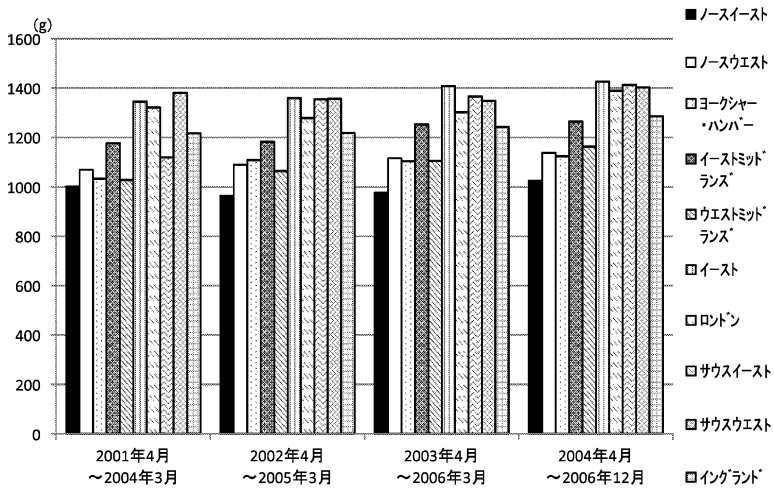


図III-10 地域別週1人当たり野菜類（馬鈴薯を除く）家庭平均購入量  
出所）図III-1と同じ。

サウスウエスト地域 1,288 g、ロンドン地域 1,237 g、サウスイースト地域 1,235 g が上位 3 地域である。ノースウエスト地域が 1,033 g で最も少なく、上位 3 地域とは 200 g 以上の購入量の差がある。

ここで注目すべき点は 2 点ある。サウスウエスト地域は馬鈴薯購入量も比較的多い。それに対して、ロンドン地域とサウスイースト地域は、馬鈴薯購入量が少ない。2004 年 4 月～06 年 12 月の平均値で見ると、ロンドン地域 625 g、サウスイースト地域 774 g である。ロンドン地域はイングランド全体平均の 811 g を大きく下回っている。前述したとおりロンドン地域は外食支出額が最も高多い。サウスイースト地域も、ヨークシャー・ハンバー地域に次いで 3 番目に外食支出額が多い。外食頻度と馬鈴薯家庭購入量は負の相関関係にあると、推察できる<sup>7)</sup>。

図III-11 は果物購入量を比較している。イースト地域、サウスイースト地域、サウスウエスト地域が果物購入量が多い。2004 年 4 月～06 年 12 月の平均値で見ると、これら上位 3 地域は 1,400 g を超えている。他



図III-11 地域別週1人当たり果物家庭平均購入量

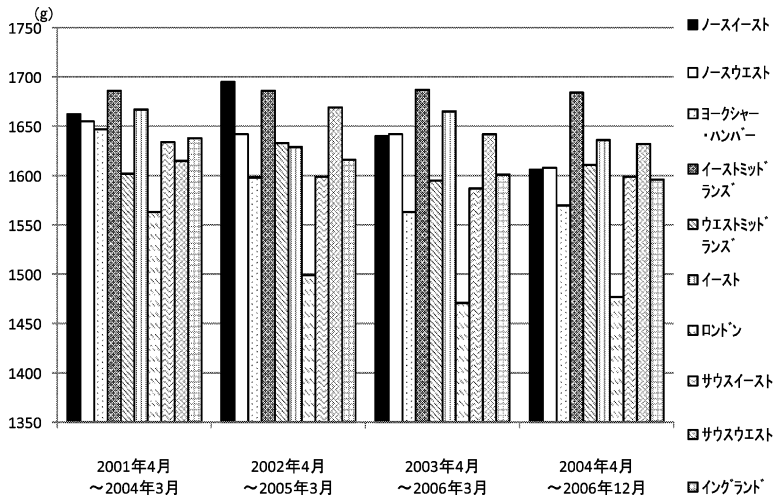
出所) 図III-1と同じ。

方、ノースイースト地域が1,025 gで最も少なく、イースト地域に比べて400 g程度少ない。

図III-12は穀類購入量を比較している。イングランド全体平均では1,600 g前後である。イーストミッドランズ地域では穀類購入量が多く、ロンドン地域は最も少ない。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、イーストミッドランズ地域1,684 g、ロンドン地域1,477 gであり、200 g以上差がある。

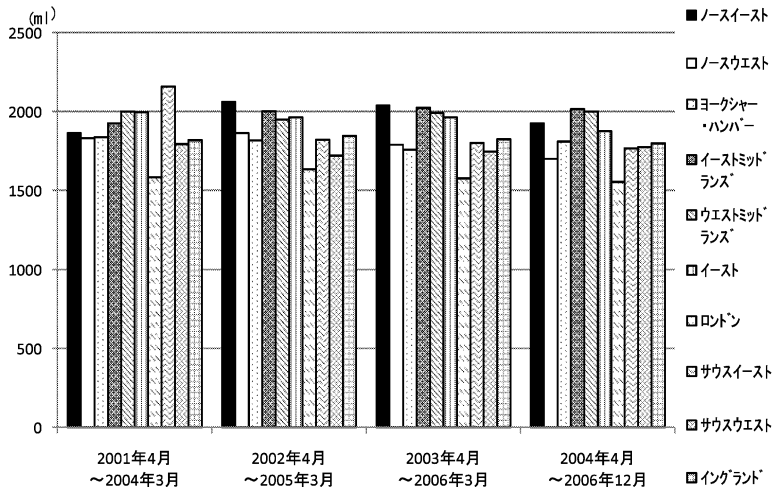
図III-13はノンアルコール購入量を、図III-14はアルコール購入量を、それぞれ比較している。ノンアルコール購入量は、ロンドン地域が最も少ない。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、1,554 mlである。イーストミッドランズ地域、ウェストミッドランズ地域、ノースイースト地域が多く、それぞれ2,015 ml、2,000 ml、1,926 mlである。

また、アルコール購入量でもロンドン地域が最も少ない。ノースイースト地域とノースウエスト地域が多い。2004年4月～06年12月の平均



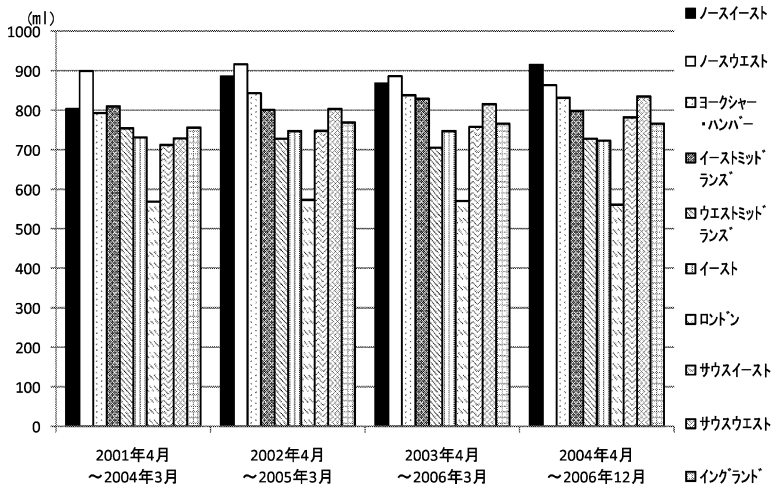
図III-12 地域別週1人当たり穀類家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図III-13 地域別週1人当たりノンアルコール飲料家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図III-14 地域別週1人当たりアルコール飲料家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。

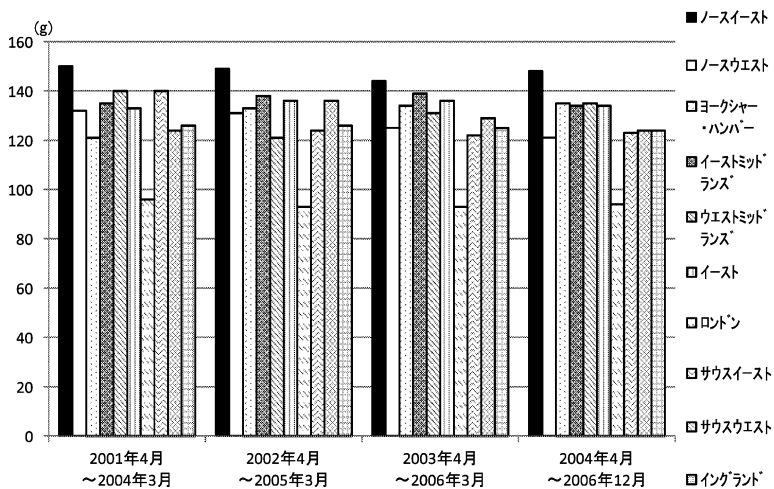
値で見ると、ロンドン地域は561 ml、ノースイースト地域は915 ml、ノースウエスト地域は863 mlである。

図III-15は菓子類購入量を比較している。菓子類購入量は、ノースイースト地域が最も多く、ロンドン地域が最も少ない。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、ノースイースト地域148 g、ロンドン地域94 gで、50 g以上の差がある。

#### IV. PFC 供給熱量比率比較

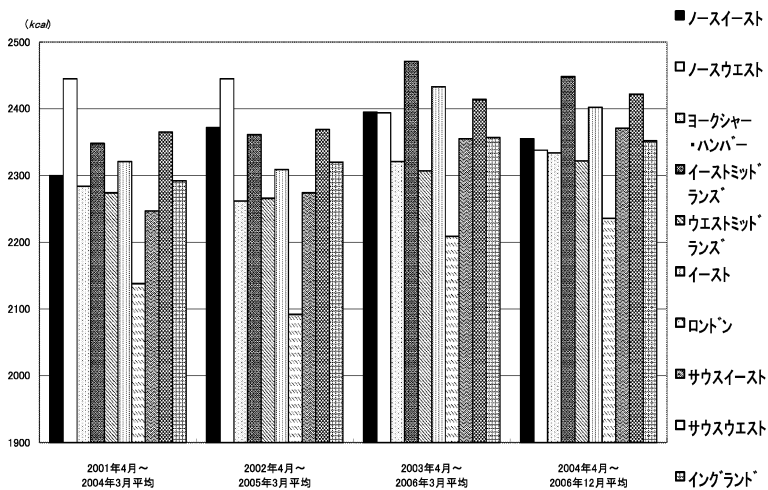
##### 1. 熱量摂取量

図IV-1は、1日当たり熱量摂取量を比較している。どの地域も2,200 kcal台～2,400 kcal前半の範囲に収まっている。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、イーストミッドランズ地域、サウスウエスト地域およびイースト地域が2,400 kcalを越えている。それぞれ2,448 kcal、2,422 kcal、2,402 kcalである。ロンドン地域のみ2,236 kcalで



図III-15 地域別週1人当たり菓子類家庭平均購入量

出所) 図III-1と同じ。



図IV-1 1人1日当たり熱量摂取量

出所) Defra, *Family Food, various issues* を参考にして作成。

2,200 kcal 台前半である。200 kcal 以上の差がある。

## 2. PFC 供給熱量比率

図Ⅳ-2 は、PFC 供給熱量比率を比較している。PFC 供給熱量比率の理想型は、たんぱく質（P）12～13%、脂質（F）20～30%、炭水化物（C）68～57%である。

たんぱく質は、2001年4月～04年3月の平均値においては14%±0.2%の範囲に収まっており、若干理想型数値を超えていたが、2002年4月～05年3月の平均値以降においては、どの地域も14%以上となっている。2004年4月～06年12月の平均値で見ると、ノースウエスト地域が最も大きく、14.5%である。

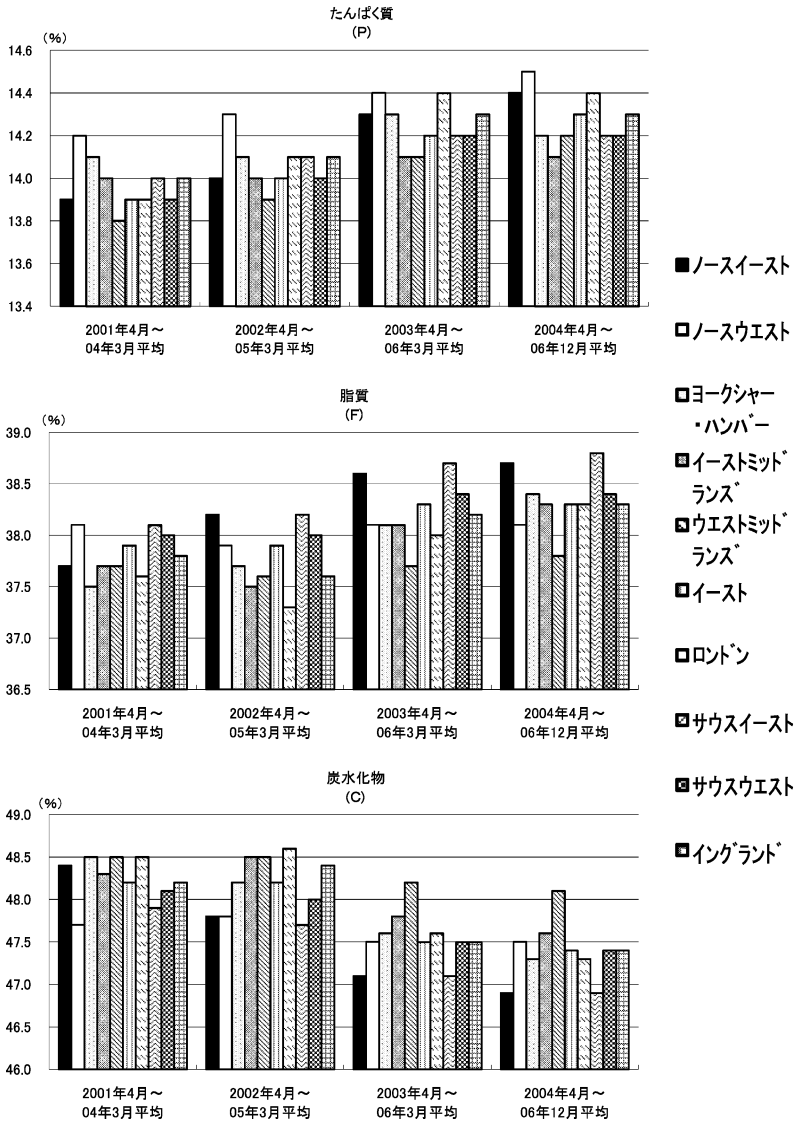
脂質は、4期間どの地域においても37%台後半から38%台後半の範囲である。脂質摂取の大きい点が明らかである。どの地域もわずかながらではあるが、数値が上昇傾向にあると見て取れる。

炭水化物摂取は理想型数値と比較して著しく小さい。2004年4月～06年12月の平均値で最も大きいウエストミッドランズ地域であっても、48.1%である。最も小さいノースイースト地域では46.9%である。その他の地域は47%台である。

注目すべき地域は、ノースイースト地域である。図Ⅳ-2より明らかのように、たんぱく質と脂質の数値が増加傾向にある一方で、炭水化物の数値が減少傾向を示している。

## V. むすびにかえて

小稿では、イングランド各地域の社会経済事情について、年齢階層、世帯数、雇用形態および家計所得などの視点から整理しつつ、主要な飲食料品に関して家庭購入量の地域比較をおこなってきた。食生活に関して幾つかの地域的特徴が明らかになった。



図IV-2 PFC 供給熱量比率

出所) 図IV-1 と同じ。



第一に、家計所得の多寡が家庭購入量に大きく影響を与えている食品がある。

ここでまず表Ⅴ-1を見てみたい。表Ⅴ-1は、2005～06年平均値で示したイギリスの所得階層別主要食品週平均家計支出額である。第Ⅰ部位（最下層）から第Ⅹ部位（最上層）まで所得階層を10段階に分けている。一般的には、所得増加につれて支出額が増加する。第Ⅰ部位と第Ⅹ部位を比較して、支出額の伸びが大きく異なる品目がある。牛肉では0.70ポンドから2.6ポンドと、3.7倍強である。ちなみに豚肉では0.3ポンドから0.60ポンドと、2倍である。魚および魚製品では1.10ポンドから3.90ポンドと、3.5倍強である。生鮮果物と生鮮野菜では、さらに支出額の差が広がる。生鮮果物では1.30ポンドから5.20ポンドと、4倍である。生鮮野菜では1.60ポンドから6.40ポンドと、4倍である。

家計所得の最も低いノースイースト地域では、他地域と比較して生肉、野菜類あるいは果物の家庭購入量は相対的に少ない。家計所得の最も高いロンドン地域は馬鈴薯の家庭購入量は最も少ない(図Ⅱ-1、図Ⅲ-3、図Ⅲ-9、図Ⅲ-10参照)。

イングランドの気候風土や農業構造を考えるならば、生鮮緑色野菜類や生鮮果物は、上級財的な食品であると言えよう。

第二に、牛乳・生クリームの家庭購入量の差に年齢構成が影響を与えていると推察できる。高齢化が進行しているサウスウエスト地域、イーストミッドランズ地域、ノースイースト地域では、牛乳・生クリームの家庭購入量が相対的に多い。他方、ロンドン地域は牛乳・生クリームの家庭購入量が最も少ない(表Ⅱ-1、図Ⅲ-1参照)。加えて、移民流入数も牛乳・生クリームの家庭購入量に影響を与えているのではないだろうか(表Ⅱ-3参照)。ある程度は母国の食生活習慣を持ち込む。移民流入数はサウスウエスト地域が最も少なく、ロンドン地域が最も多い。都市と地方との間において、紅茶と牛乳の組み合わせ(tea with milk)や牛

表V-1 イギリスにおける所得階層別主要食品 週平均家計支出額 (2005～06年平均)

	ポンド/週										
	第I部位(最下層)	第II部位	第III部位	第IV部位	第V部位	第VI部位	第VII部位	第VIII部位	第IX部位	第X部位(最上層)	全部位平均
パン、米および穀類	2.30	2.70	3.20	3.40	3.80	4.30	4.50	5.20	5.50	5.80	4.10
パスタ類	0.10	0.20	0.20	0.20	0.30	0.40	0.30	0.40	0.40	0.50	0.30
牛肉(生鮮又は冷凍)	0.70	0.80	1.20	1.30	1.40	1.60	1.50	1.70	2.10	2.60	1.50
豚肉(生鮮又は冷凍)	0.30	0.30	0.50	0.50	0.60	0.50	0.70	0.70	0.70	0.60	0.50
羊肉(生鮮又は冷凍)	0.30	0.40	0.60	0.60	0.50	0.50	0.80	0.60	1.00	1.30	0.70
家禽肉(生鮮又は冷凍)	0.80	0.90	1.30	1.20	1.40	1.80	1.90	2.40	2.50	3.00	1.70
ベーコンおよびハム	0.50	0.60	0.70	0.80	0.90	0.90	1.00	1.00	1.00	1.10	0.80
その他肉類および肉製品	2.80	3.30	3.60	4.20	4.60	5.10	5.50	5.90	6.30	7.20	4.80
魚および魚製品	1.10	1.40	1.70	1.90	1.70	1.90	2.00	2.30	2.60	3.90	2.00
鶏卵	0.30	0.30	0.40	0.40	0.40	0.50	0.50	0.50	0.50	0.60	0.50
牛乳	1.40	1.80	2.00	2.20	2.30	2.40	2.60	2.60	2.70	2.60	2.30
チーズおよび凝乳状製品	0.90	0.90	1.00	1.20	1.30	1.50	1.70	1.90	2.10	2.50	1.50
バター	0.10	0.20	0.20	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.40	0.30
その他乳製品	0.70	1.00	1.20	1.30	1.50	1.60	1.80	2.10	2.20	2.60	1.60
調理用油脂類	0.10	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.30	0.20
生鮮果物	1.30	1.80	2.20	2.30	2.50	2.60	3.00	3.20	4.00	5.20	2.80
生鮮野菜	1.60	1.90	2.50	2.60	2.90	3.40	3.70	4.30	4.90	6.40	3.40
馬鈴薯	0.50	0.50	0.60	0.60	0.70	0.70	0.80	0.70	0.80	0.80	0.70
コーヒー	0.30	0.30	0.40	0.50	0.50	0.40	0.50	0.60	0.60	0.70	0.50
紅茶	0.30	0.40	0.50	0.40	0.40	0.40	0.40	0.50	0.50	0.50	0.40
ココアおよびチョコレート飲料	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
アルコール飲料	2.30	2.70	3.60	4.50	5.40	6.70	7.60	8.80	8.70	12.20	6.30

出所) ONS, *Family Spending*, pp.88～89 TableA8 を参考にして作成。

乳を用いた家庭料理などの伝統的なイングランドの食生活の濃淡の差が反映されているとも、言えるのではないであろうか。

第三に、PFC 供給熱量比率において炭水化物(C)が高いウエストミッドランズ地域は、馬鈴薯の家庭購入量が最も多い(図Ⅲ-10、図Ⅳ-2 参照)。同地域はウェールズと接しているゆえに、ウェールズの食料購入傾向に類似している<sup>8)</sup>。ちなみにイーストミッドランズ地域は穀類家庭購入量が最も多く、熱量摂取量も最も高い。

第四に、家計所得と外食支出額の関係である。家計所得が高いロンドン地域やサウスイースト地域は、外食支出額が多い<sup>9)</sup>。最も家計所得が低いノースイースト地域では相対的に外食支出額は低い(図Ⅱ-1、表Ⅲ-1 参照)。なお PFC 供給熱量比率で見ると、ノースイースト地域ではたんぱく質(P)と脂質(F)の比率が上昇傾向を示し、炭水化物(C)の比率が下降傾向を示している(図Ⅳ-2 参照)。

イングランドの各地域においても「食の地域性」が存在していることが、おおよそ明らかになった。なお残された課題としては、さらに地域特性を詳細に分析していくことがある。たとえば、移民流入者の出身国、家族構成、職業分布、大型小売店舗数や外食店舗数などの視点から、品目別家庭購入量数の地域比較を分析するならば、さらに地域的な食生活の特徴が解明できるであろう。今後、稿を改めて論じていきたい。

## 注

- 1) この点について詳しくは、平岡(2008) pp.305~306を参照のこと。
- 2) 北アイルランドでは、炭水化物の摂取がグレートブリテンより高い。
- 3) ONS(2008a) pp.3~4。
- 4) 1955~70年代前半における週一人当たり牛乳・生クリーム消費量は2,700 ml±100 ml前後の範囲に収まっていた。とりわけ牛乳の長期的な消費低下傾向は続いている。

- 5) イギリスでは、プロセスチーズよりもナチュラルチーズが多く消費されている。チーズ類消費量の動向において注目すべき点は、1970年代以降も顕著な変化が見られないことである。なおこの点について詳しくは、さしあたり平岡（2007）を参照のこと。
- 6) 1955～70年代前半における週一人当たり鶏卵消費量は、4.0個を超えていた。
- 7) 従来は食料の海外依存度が高かったイギリスにおいては、馬鈴薯は第二次世界大戦以前から非常に自給率が高い農産物であった。また、熱量の観点からは、他の農産物と比較して土地生産性が高い作物であった。
- 8) ウェールズの食料消費の傾向については、さしあたり平岡（2008）pp. 292～310を参照のこと
- 9) 2003/04年度～05/06年度の平均値で見ると、ロンドン地域では、レストランおよびホテルに対する週平均家計支出額は45.40ポンドである。他方、ノースイースト地域では同31.40ポンドである。両地域では14.00ポンドの差がある。その他の支出項目では、教育費が当該9地域の中で最も高く、12.20ポンドである。

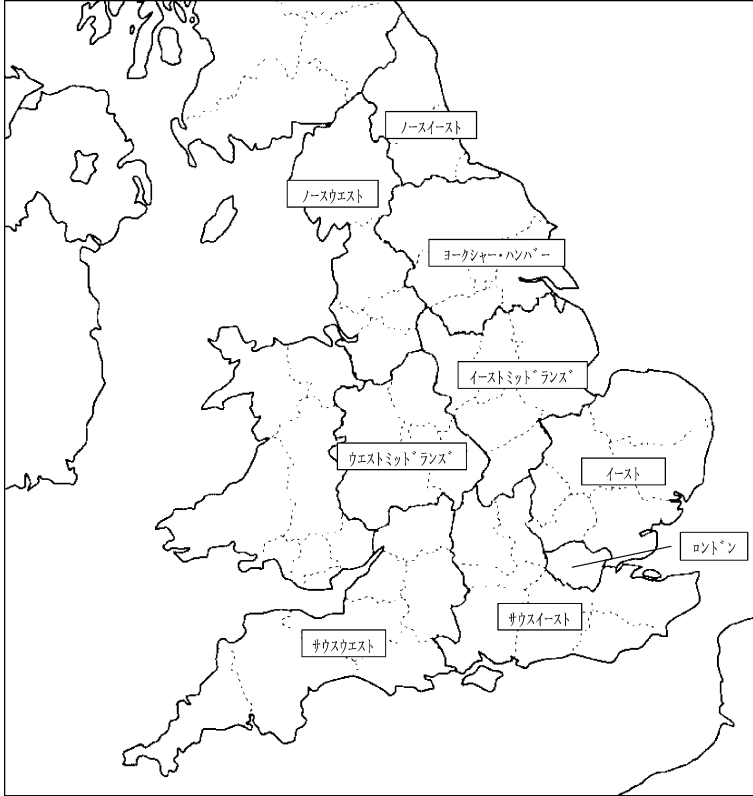
#### 参考文献

- [1] 梶川千賀子（2000）「わが国食料消費の変化とその特徴」黒柳俊雄編著『消費者と食料経済』第3章、中央経済社、pp.31～46。
- [2] 平岡 祥孝（2006）「近年のイギリスにおける外食動向に関する一考察」『北海道武蔵女子短期大学紀要』第38号、pp.215～232。
- [3] 平岡 祥孝（2007）「近年のイギリスにおける牛乳・乳製品の消費動向に関する一考察」『北海道武蔵女子短期大学紀要』第39号、pp.86～114。
- [4] 平岡 祥孝（2008）「連合王国における食料消費に関する一考察—イングランド・ウェールズ・スコットランド・北アイルランドの比較分析を中心として—」『北海道武蔵女子短期大学紀要』第40号、pp.285～310。
- [5] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2003) *Family Food in 2001/02*, The Stationery Office.

- [ 6 ] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2004) *Family Food in 2002-03, A report on the 2002-03 Expenditure and Food Survey*, The Stationery Office.
- [ 7 ] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2005) *Family Food in 2003-04, A report on the 2003-04 Expenditure and Food Survey*, The Stationery Office.
- [ 8 ] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2006) *Family Food in 2004-05, A report on the 2004-05 Expenditure and Food Survey*, The Stationery Office.
- [ 9 ] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2007) *Family Food in 2004-05, A report on the 2005-06 Expenditure and Food Survey*, The Stationery Office.
- [10] Department of Environment, Food and Rural Affairs (Defra) (2008) *Family Food in 2006, A report on the 2006 Expenditure and Food Survey*, The Stationery Office.
- [11] Office for National Statistics (ONS) (2007) *Family Spending, A report on the 2005-06 Expenditure and Food Survey*, Palgrave Macmillan.
- [12] Office for National Statistics (ONS) (2008a) *Annual Abstract of Statistics No144*, Palgrave Macmillan.
- [13] Office for National Statistics (ONS) (2008b) *Key Population and Vital Statistics Series VS No33*, Palgrave Macmillan.
- [14] Office for National Statistics (ONS) (2008c) *Regional Trends No40*, Palgrave Macmillan.

[付記]

小稿執筆に際して、図表の作成に関しては小松祐司氏（北海道武蔵女子短期大学事務局総務係）ならびに玉田清市氏（同学務課長代理）にたいへんお世話になりました。記して深謝申し上げる次第です。



イングランドの9地域